

# 日商簿記検定 2 級講座

## 工業簿記

【第8回】

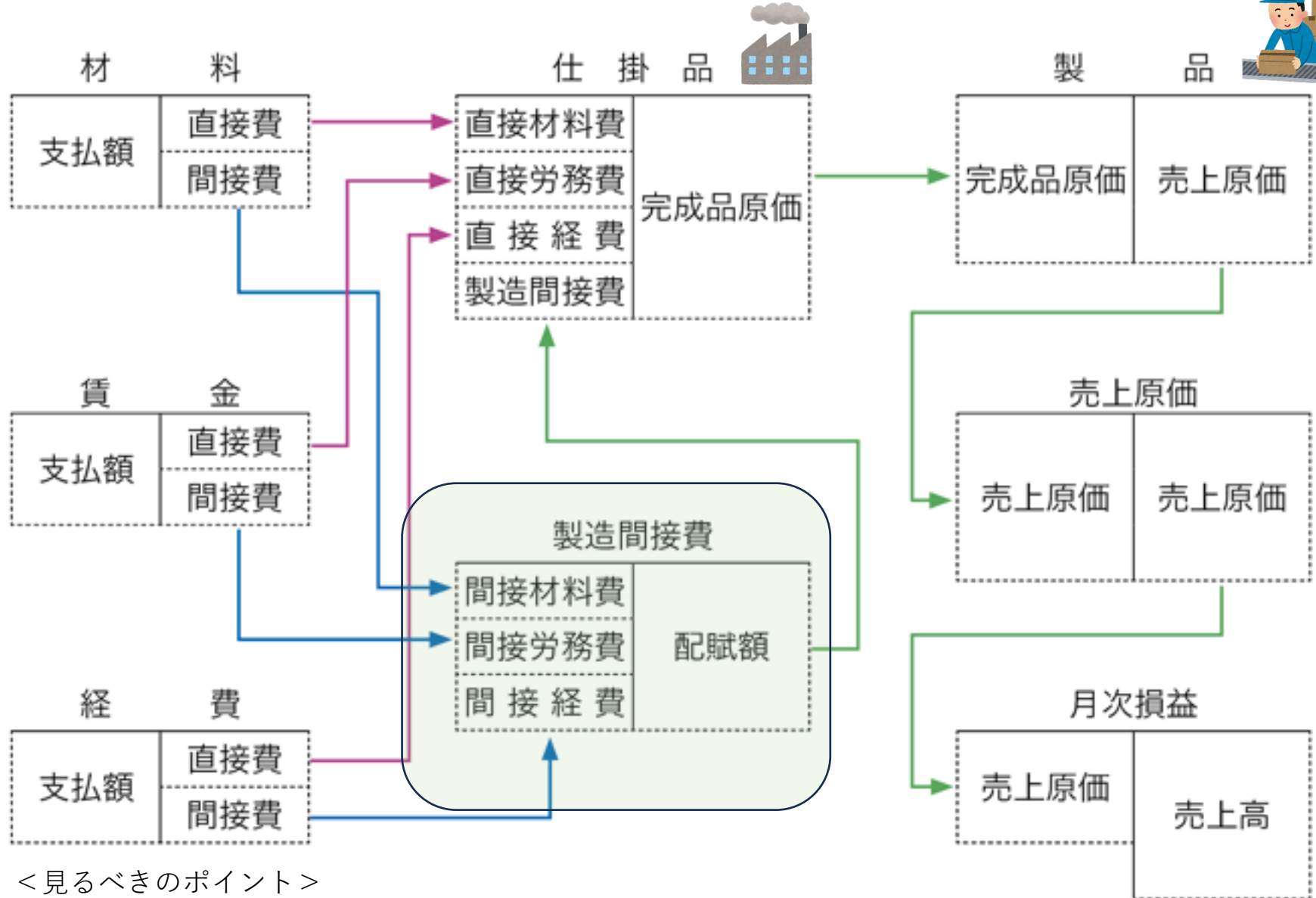
## 部門別個別原価計算 I

# 第 8 回講義の内容

テーマ 10	部門別個別原価計算 I	92 ページ
--------	-------------	--------



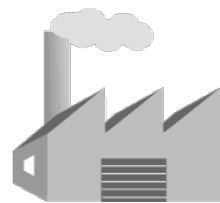
「勘定連絡図」(P63)を確認してください。



<見るべきのポイント>

- ①直接費と間接費で行き先が異なる
- ②間接費は製造間接費勘定を經由して配賦される。

# 1. 部門別個別原価計算 (P 92)



組立部門

切削部門

【前回の復習】総括配賦の問題点

→ 「単純」個別原価計算

## 材 料

直接費3,500  
間接費1,500

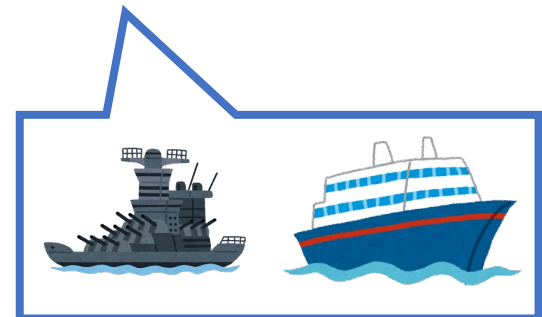
## 仕掛品

直材料費3,500  
直接労務費4,000  
製造間接費

## 製造間接費

## 賃 金

直接費4,000  
間接費1,500



No. 1

No. 2

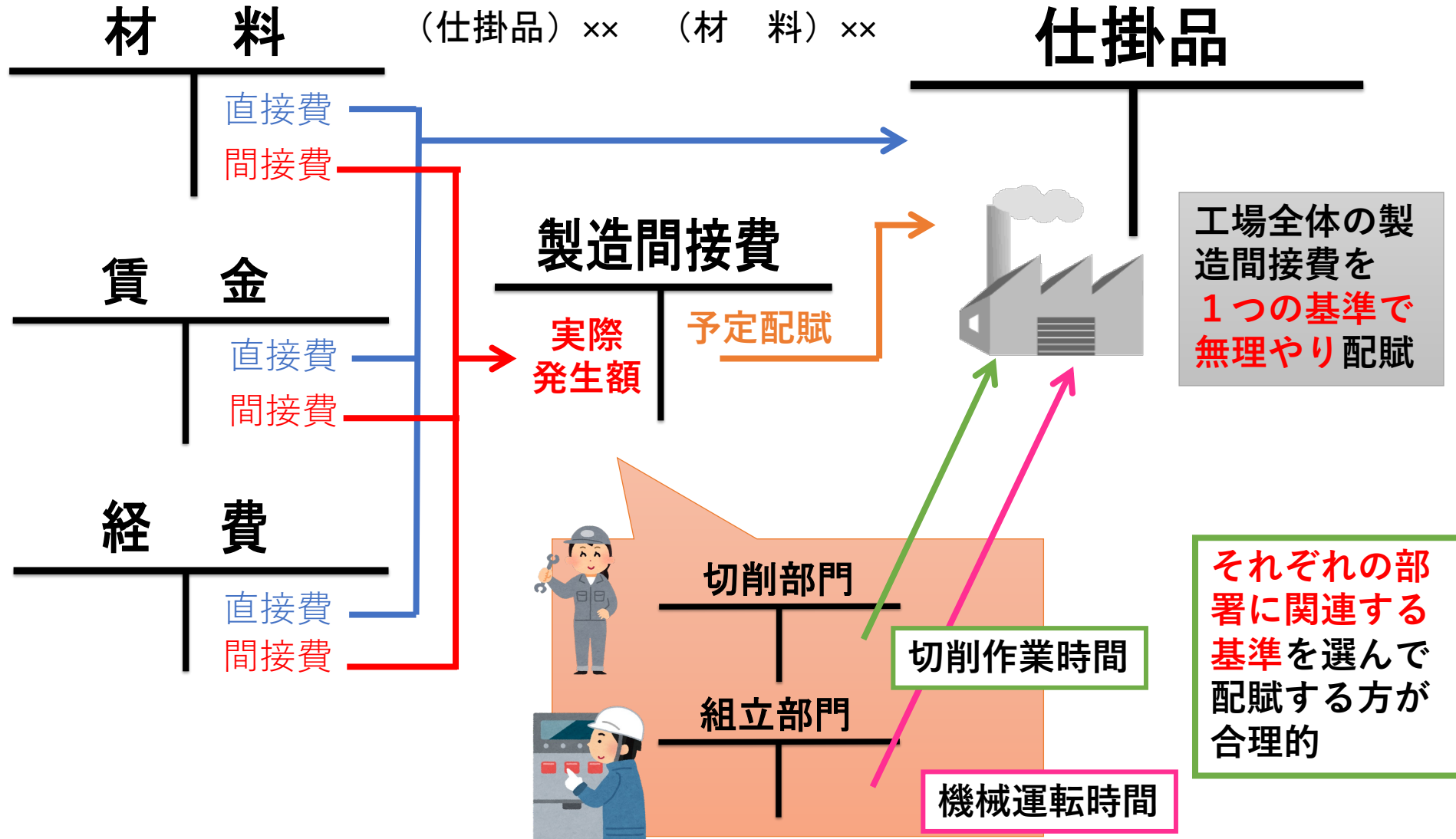
## 経 費

直接費0  
間接費3,600

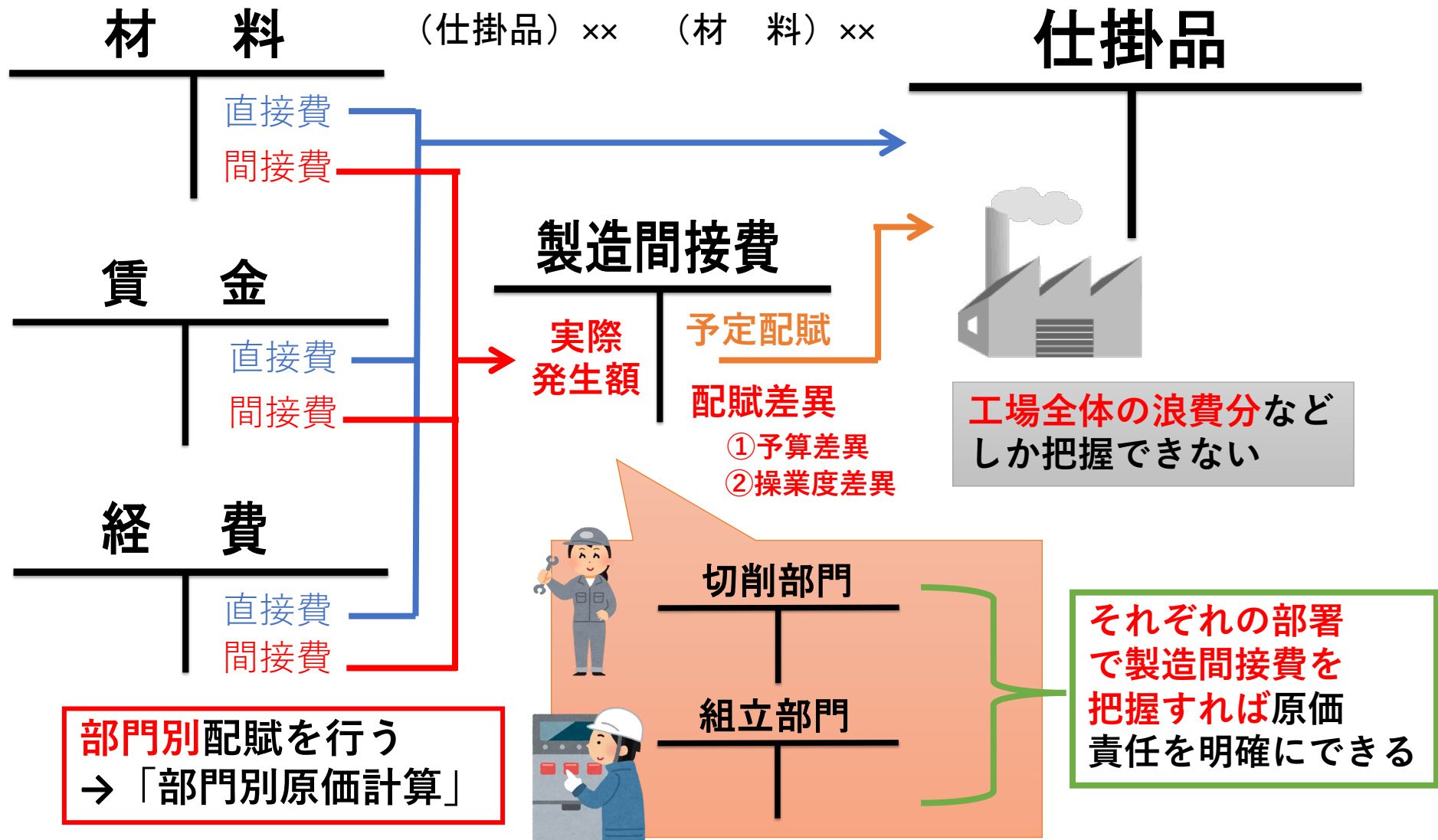
例えば、「機械運転時間」  
を基準に配賦したとする



① 1つの基準だけで配賦していいのか？



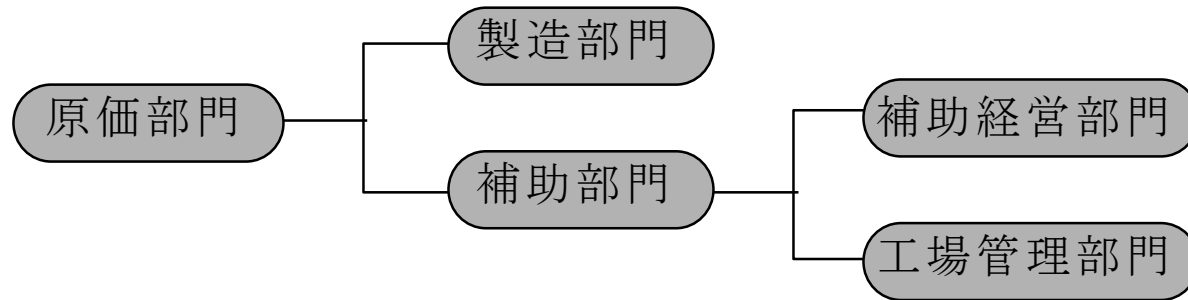
## ②工場全体でしか浪費分が把握できない



## 2 2. 原価部門 (P 93)

### <原価部門の分類>

原価部門は次のように分類される。

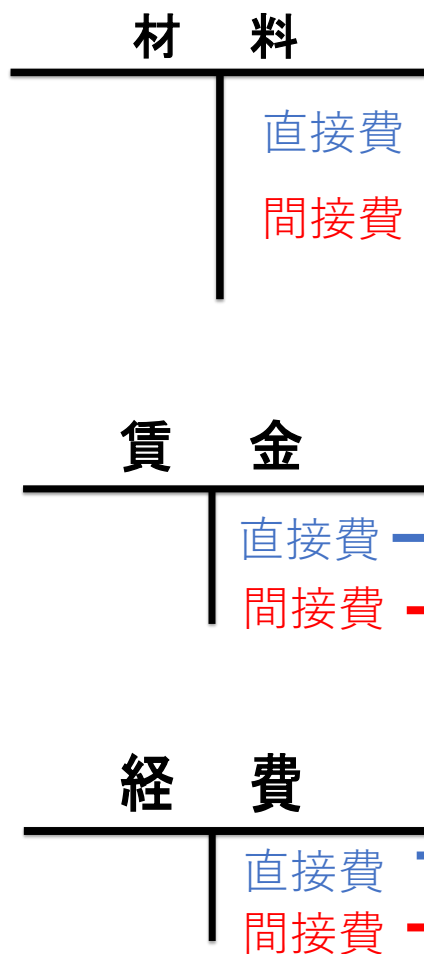


(原価部門の分類)

原 価 部 門	製 造 部 門	機械加工部、切削部、組立部、仕上部など	
	補 助 部 門	① 補助経営部門	修繕部、動力部、運搬部など
		② 工場管理部門	材料部、企画部、工場事務部など

3 部門別計算手続き ( P 93 )

4 勘定連絡図 ( P 94 )



製造間接費

716,500 | 716,500

第1次集計

で  
計算 (配賦) を  
していきます

切削部門



組立部門



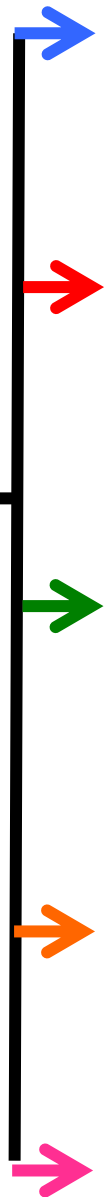
動力部門



修繕部門



工場事務部門





## 5 第一次集計 (P95~97)

### <設例10-1> 部門別個別原価計算(P96)

当社は造船会社であり、当社は2隻の船の建造を受注し、下記の製造指図書を発行した。



製造指図書No.1  
戦艦大和

製造指図書No.2  
タイタニック号



- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「**部門別**」個別原価計算を採用している。
- (2) **工場全体で発生した製造間接費は6,600円**であり（上記(2)参照）**各部門に配賦**する。
- (5) 決算業務にあたり、①部門配賦表を作成するとともに、②各部門費勘定へと振替える処理をする。



原価計算担当者が作成した部門費に関する資料は下記のとおり

	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門	製造間接費合計
部門個別費	1,500円	1,580円	160円	260円	50円	6,600円
部門共通費	①福利施設負担額1,050円 ②建物減価償却費2,000円					
上記の部門共通費の配賦基準(1) ：従業員数	30人	20人	6人	4人	10人	70人
上記の部門共通費の配賦基準(2) ・占有面積	170㎡	160㎡	30㎡	20㎡	20㎡	400㎡



# ①部門配賦表の作成【原価の計算】

【第一次集】

部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門個別費 (直課)						
部門共通費 (配賦)						
福利施設負担額						
建物減価償却費						
部門費費						

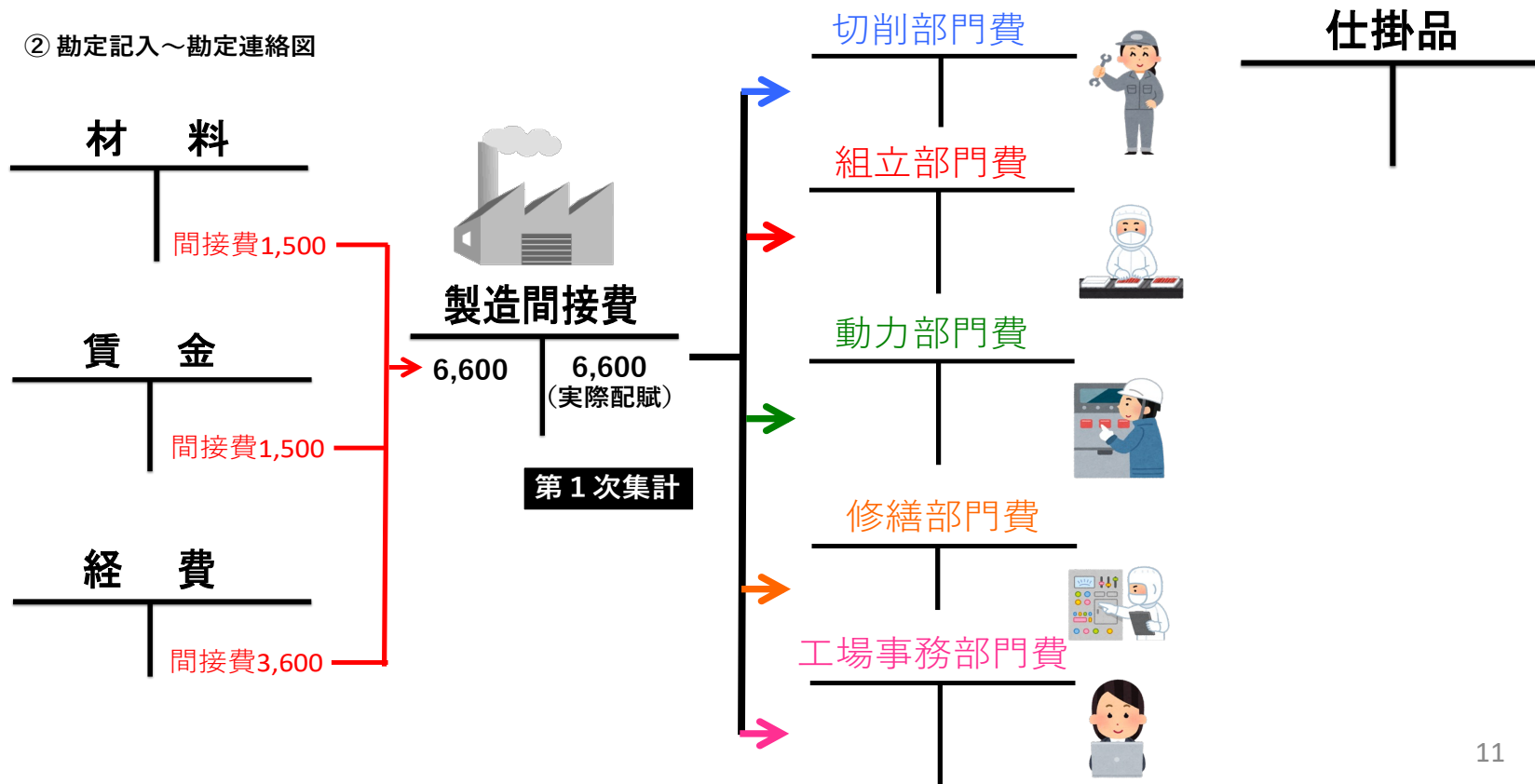
部門共通費は、福利施設負担額は「従業員数」で、建物減価償却費は「占有面積」を基準に配賦してください。

②勘定記入（仕訳帳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
切削部門費		製造間接費	
組立部門費			
動力部門費			
修繕部門費			
工場事務部門費			

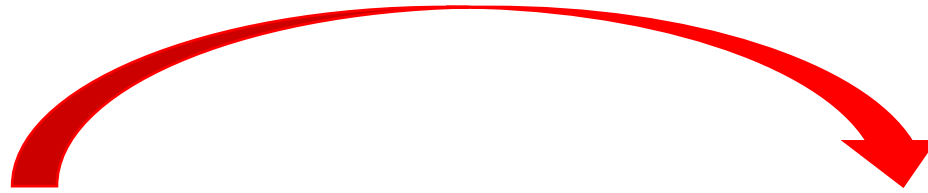


② 勘定記入～勘定連絡図



# 簿記 3 級の復習

「振替仕訳」ってなに？



材 料

製造間接費

借 方	金 額	貸 方	金 額

## 6 第2次集計 (P 98)

第2次集計では、**補助部門費を製造部門費に配賦**する計算を行います。

製造部門

切削部門費

2,800



何かを基準に配賦

第2次集計

組立造部門費

2,680



補助部門

動力部門

400



修繕部門

420



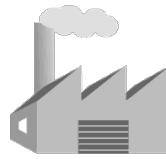
工場事務部門

300

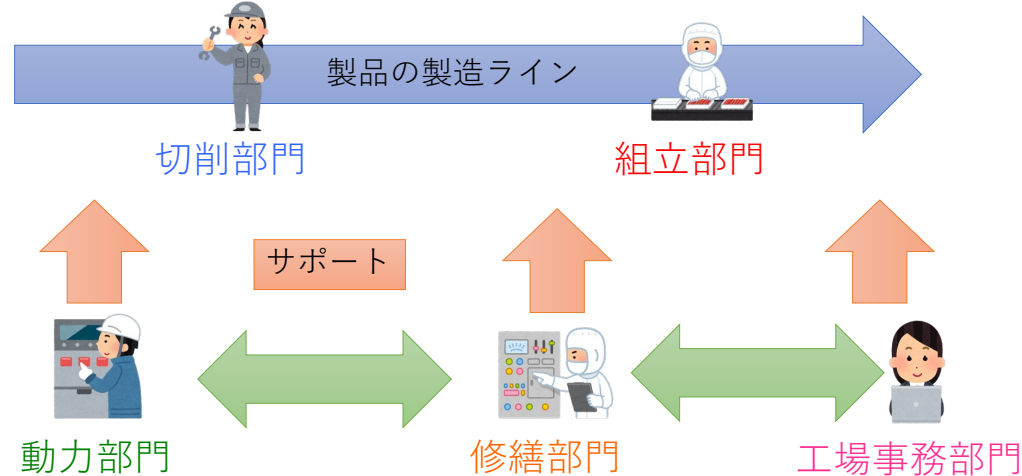


仕掛品勘勘定  
に配賦して  
いない!

製品の製造に**直接携わって**  
いるのは「**製造部門**」です。  
(**切削と組立部門**)



「**補助部門**」は製造部門を  
**サポートしている**ので、  
その製造**間接費**は、**製造部門**  
の方に**配賦**をします。



## 第2次集計の配賦方法における論点

補助部門費を製造部門へ配賦する方法においては、次の3点を考慮し、かつ組み合わせながら考えていくことが必要である。

- ① 補助部門間のサービス（用役）の授受をいかに処理するか（P98・P104）
- ② 変動費と固定費とに分けて、それぞれ別個の配賦基準を使用すべきか（簿記1級）。
- ③ 責任会計の見地から、実際発生額を配賦するか、予定配賦を行うか、あるいは予算許容額を配賦するか（P106）。

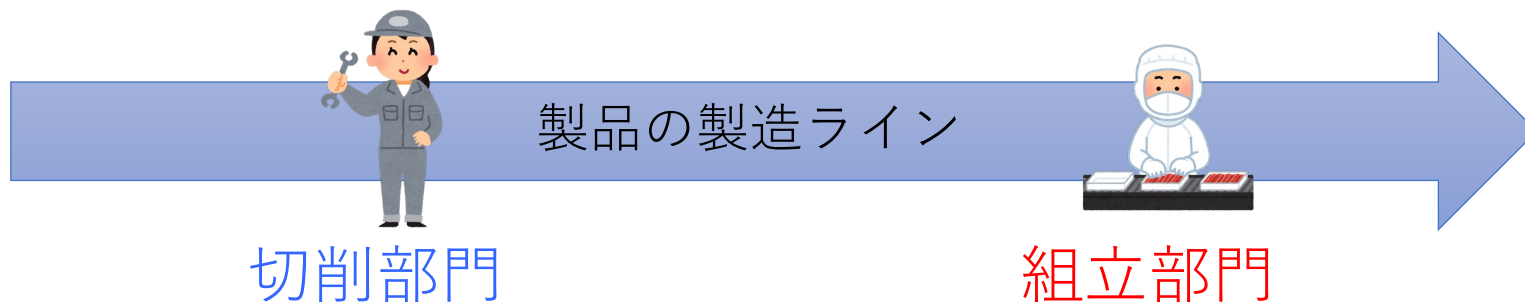


# 部門費の第2次集計の必要性について (P98)

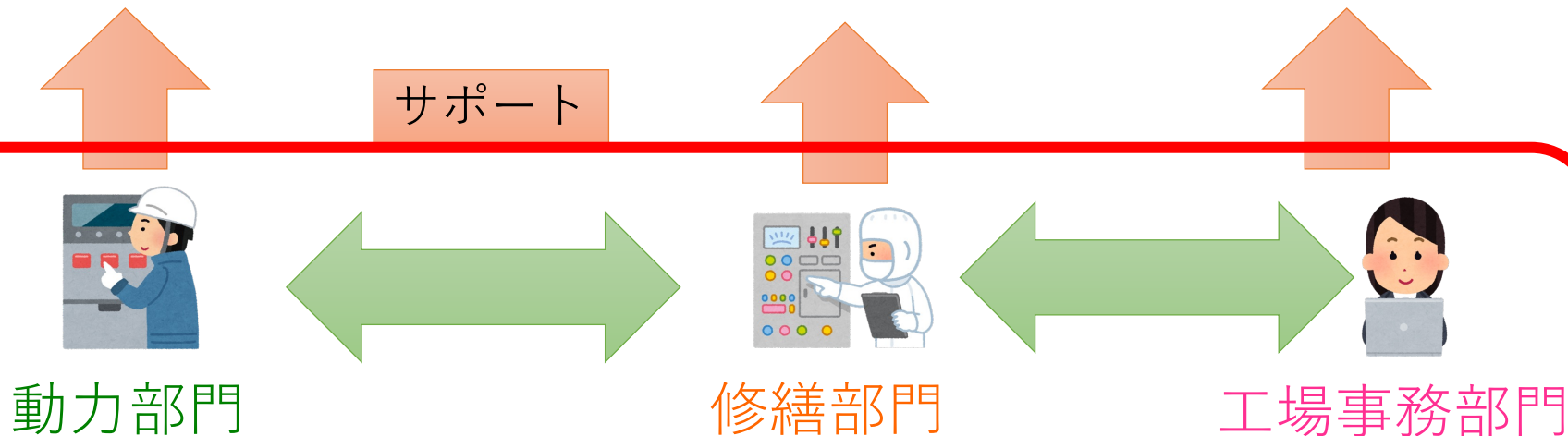
製品の製造に**直接携わって**  
いるのは「**製造部門**」です。  
(**切削と組立部門**)



「**補助部門**」は製造部門を  
**サポート**しているので、  
その製造間接費は、**製造部門**  
の方に**配賦**をします。



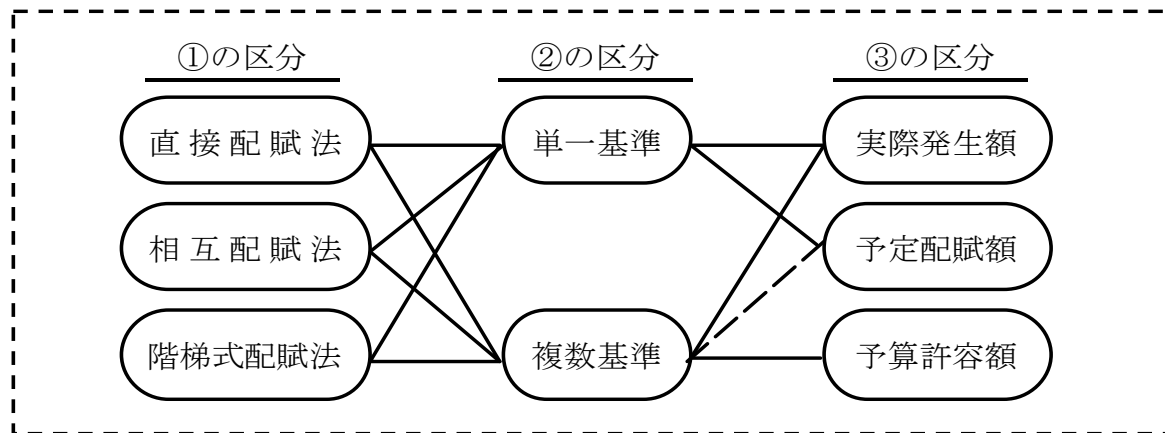
サポート



## 第2次集計の配賦方法における論点

補助部門費を製造部門へ配賦する方法においては、次の3点を考慮し、かつ組み合わせながら考えていくことが必要である。

- ① 補助部門間のサービス（用役）の授受をいかに処理するか（P98・P104）
- ② 変動費と固定費とに分けて、それぞれ別個の配賦基準を使用すべきか（簿記1級）。
- ③ 責任会計の見地から、実際発生額を配賦するか、予定配賦を行うか、あるいは予算許容額を配賦するか（P106）。



(注) 上図の…はあまり結びつけられないことを意味する。

補助部門費の配賦計算を学習する際は、常に上図で位置づけを確認すること。

< 設例10-2 > 直接配賦法（第2次集計） P100

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「部門別」個別原価計算を採用している。
- (2) 第1次集計が終わったので、**第2次集計**を行う（補助部門費の配賦計算）。
- (3) 補助部門費の配賦計算では、「**補助部門間の用益授受を一切考慮しない（直接配賦法）方法**」によること。
- (4) ①部門配賦表（第2次集計）を作成するとともに、②各部門費勘定へと振替える処理をする。



原価計算担当者が作成した部門費に関する資料は下記のとおり

	製造間接費 合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費	6,600	2,800円	2,680円	400円	420円	300円
補助部門配賦基準 ：動力消費量	800kwh	320kwh	320kwh	—	100kwh	60kwh
：修繕時間	60時間	24時間	32時間	4時間	—	—
：従業員数	70人	30人	20人	6人	4人	10人

製品の製造に**直接携わって**  
いるのは「**製造部門**」です。  
(切削と組立部門)



「**補助部門**」は製造部門を  
**サポートしている**ので、  
その製造間接費は、**製造部門**  
の方に**配賦**をします。



製品の製造ライン



320 kWh 切削部門

320 kWh 組立部門

サポート



動力部門



修繕部門



工場事務部門

100 kWh

60 kWh

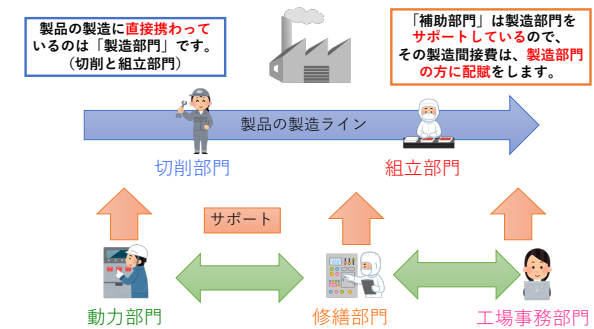
他の補助部門にも用益を提供している  
けど、それを無視する方法→直接配賦法

# ①部門配賦表の作成【原価の計算】

部門費配賦表

(単位：円)

費目	金額	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費	6,600	2,800	2,680	400	420	300
動力部門						
修繕部門						
工場事務部門						
製造部門費						

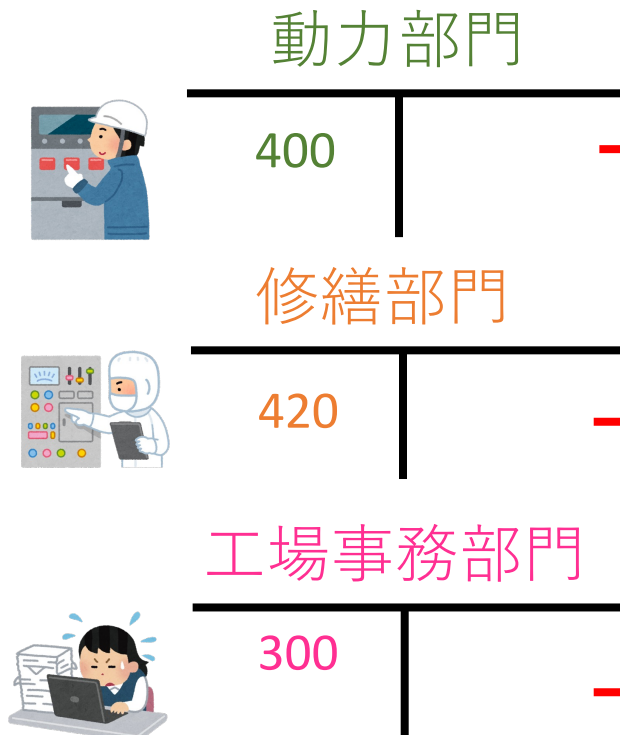


## ②勘定記入 (仕訳帳)

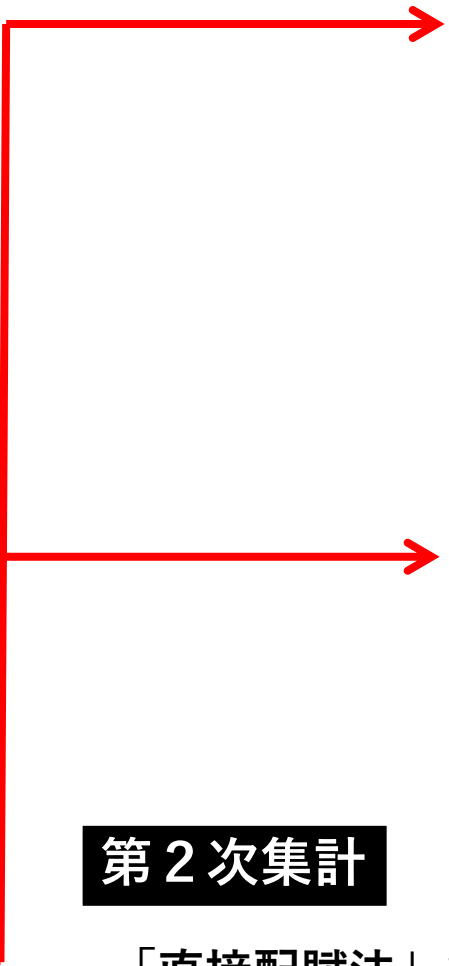
借方科目	金額	貸方科目	金額
切削部門費		動力部門費	
組立部門費		修繕部門費	
		工場事務部門費	

## ② 勘定記入～勘定連絡図

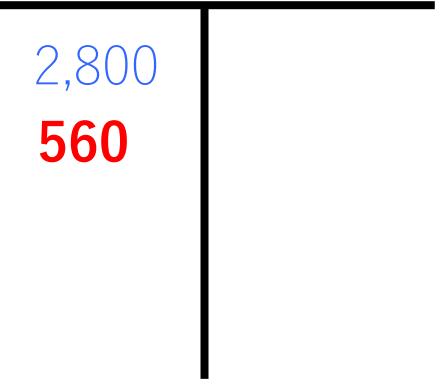
第1次集計  
は完了している



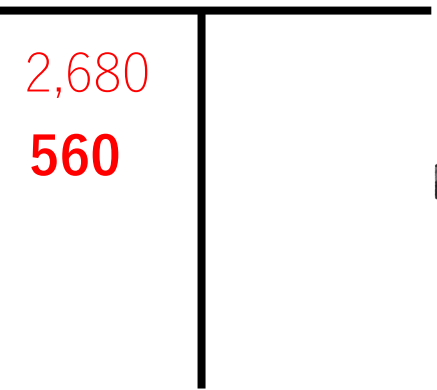
補助部門費を  
それぞれの配賦  
基準で配賦



切削部門費



組立造部門費



第2次集計

「直接配賦法」では補助部門間では  
製造間接費を配賦しない



<設例10-3> 相互配賦法（第2次集計） P105

- (1) 当工場では、製造部門と補助部門に分けた「部門別」個別原価計算を採用している。
- (2) 第1次集計が終わったので、**第2次集計**を行う（補助部門費の配賦計算）。
- (3) 補助部門費の配賦計算では、「**補助部門間の用益授受を一部考慮する（簡便的な相互配賦法）方法**」によること。
- (4) ①部門配賦表（第2次集計）を作成するとともに、②各部門費勘定へと振替える処理をする。



原価計算担当者が作成した部門費に関する資料は下記のとおり

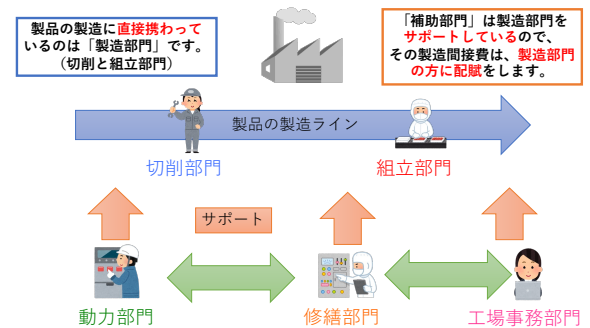
	製造間接費 合計	切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費	6,600	2,800円	2,680円	400円	420円	300円
補助部門配賦基準 ：動力消費量	800kwh	320kwh	320kwh	—	100kwh	60kwh
：修繕時間	60時間	24時間	32時間	4時間	—	—
：従業員数	70人	30人	20人	6人	4人	10人

# ①部門配賦表の作成【原価の計算】

部門費配賦表

(単位：円)

費目	金額	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費合計	6,600	2,800	2,680	400	420	300
第1次配賦；						
動力部門費						
修繕部門費						
工場事務部門費						
第2次配賦；						
動力部門費						
修繕部門費						
工場事務部門費						
製造部門費						



# ①部門配賦表の作成【原価の計算】

部門費配賦表

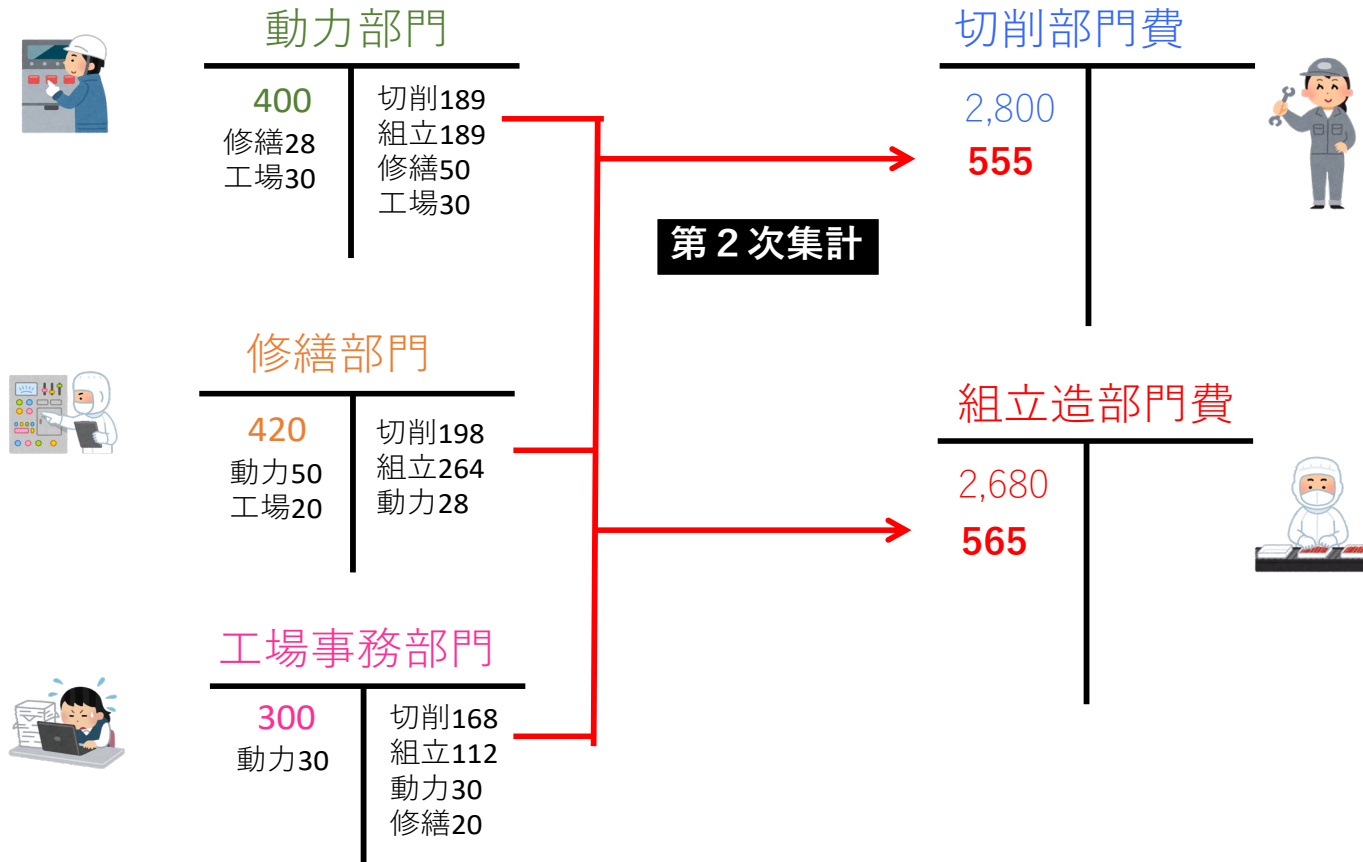
(単位：円)

費目	金額	製造部門		補助部門		
		切削部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費合計	6,600	2,800	2,680	400	420	300
第1次配賦；						
動力部門費		160	160		50	30
修繕部門費		168	224	28		
工場事務部門費		150	100	30	20	
第2次配賦；				58	70	30
動力部門費		29	29			
修繕部門費		30	40			
工場事務部門費		18	12			
製造部門費		3,355	3,245			

②勘定記入（仕訳帳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
切削部門費		動力部門費	
組立部門費		修繕部門費	
		工場事務部門費	

第1次集計は完了している



# 第1次集計は完了している



## 動力部門

400	切削189
修繕28	組立189
工場30	修繕50
	工場30

## 修繕部門

420	切削198
動力50	組立264
工場20	動力28

## 工場事務部門

300	切削168
動力30	組立112
	動力30
	修繕20



# 第2次集計

## 切削部門費

2,800  
555



## 組立造部門費

2,680  
565

